

令和8年度学校運営

当校は、筋疾患、呼吸器・循環器疾患、精神神経疾患、重症心身障がい、その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする児童生徒、また身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする児童生徒が学ぶ、病弱特別支援学校である。

◎スローガン

『元気な病弱教育』

- ・子どもたちを元気に
- ・保護者も元気に
- ・教職員も元気に
- ・地域も元気に

(1) 目指す児童生徒の姿（校訓）と教育目標

校訓： 仲よく 明るく たくましく

一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、個別具体的に応じた教育活動を行う。

(2) 教育方針

- ① 自分や仲間の生命がかけがえのないものであることを理解し、大切にしている心情や態度を育てる。
- ② 人とかかわりを通して、気持ちや思いを自分なりの方法で表現し、主体的に取り組むことができる力の礎となる自己肯定感を育てる。
- ③ 自立と社会参加を目指して、確かな学力と生きる力を育成する。
- ④ 病弱教育のコア・スクールとして、教職員の資質や専門性の向上を図るとともに、センター的機能を発揮した支援を行う。

(3) 教育の重点

◎児童生徒と保護者と教職員、そして地域がつながりのある教育実践を具体的に展開していくなかで、児童生徒の体験活動を充実させる。

① 児童生徒を守りきる安心・安全な体制の整備・推進

- ・コロナウイルス、インフルエンザ等の、感染防止対策を確実に行う。
- ・隣接する長良医療センターとの共助に基づいた児童生徒の急変時及び災害時等における緊急時対応の体制を随時最適化し、児童生徒、教職員、保護者等の災害時の即応能力の向上を図る。
- ・人工呼吸器による医療的ケアのあり方について県教育委員会と連携しながら整理・改善を進める。
- ・ヒヤリハット報告の蓄積に努め、再発防止に必要な原因と対策の共通理解を図り、フィードバックする。

② 人とかかわりを通して、豊かな表現力、自己肯定感を育てる教育の推進

- ・日常の教育活動において、児童生徒の発達段階等に合わせて表現方法の課題を意図的に設定し、働きかけを行い、豊かなコミュニケーション能力を育てる。
- ・交流籍校や地域をはじめ様々な交流活動等において、ICT機器を積極的に活用し、さらに新しいスタイルを工夫しながら交流の場を設定し、豊かなコミュニケーション能力や自己肯定感を育てる。

③ 確かな学力と生きる力を身に付けることができる病弱教育の充実

- ・カリキュラムマネジメントによる児童生徒一人一人の課題に迫る授業づくりに取り組む。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を充実させるため、ICT機器等を活用した授業改善に取り組む。
- ・教職員自ら課題意識をもち、公開授業及び参観等を通じた自己研究及び校内研究に主体的に取り組む。

④ 病弱教育の理解啓発の推進

- ・保護者に対して、小学部の段階からキャリア教育の意義や重要性を理解していただけるような情報発信、啓発活動を継続・発展させる。
- ・病弱教育を必要とする児童生徒のニーズを把握し、病弱教育の理解啓発、充実を図るために、各特別支援学校の地域支援センターや病弱の特別支援学級、高等学校との連携、市町村教育委員会、小・中学校、医療機関等への広報や支援、研修の一層の推進を図る。
- ・学校ホームページで積極的な情報発信をし、広く病弱教育の理解啓発やニーズの掘り起こしにつなげる。
- ・校内外の研修体制の整備を継続し、病弱教育に携わる教職員として必要とされる専門性の向上を図る。